

## 北数教釧路大会

発表④ 佐々木祥悟先生

### < 質問・意見 >

浦河町立浦河第一中学校 教諭 河田 将斗先生より

ねらう考えがどのくらい出てくるかによって、分けて手立てが考えられ、フローチャートに整理されていて参考にさせていただきたいなと思いました。

部分提示、他者説明というのを行うことがあるのですが、教科書等の活用というのがイメージしにくいので、どのようなことなのか伺いたいです。教科書の式だけを見せても例題などに書いてあることが多いと思うので、その先にある続きの解法等が見えてなぞるだけにならないのだろうかという疑問でした。

### ご返答

河田先生ご質問ありがとうございます。

教科書等の活用については、開かせるというよりも教科書に出ている考え方の一部を見せるという方法をよくとっています。

例えば、補助線が引かれている図のみをスクリーンに提示して「**教科書にはこのように書いてあるんだけど続きがみえますか？**」などと問う事例です。式を見せるときには、「**教科書にこう書いてあるんだけど…**」と言って板書します。どちらにしても「**発問**」自体は大きく変わりはありません。

先生のおっしゃる通り式の先の解法までみせてしまうと、考えたいという生徒の意欲を奪うことにもつながると思います。かといって見せなさすぎると生徒が停滞することだってあると考えます。

生徒の状況にもよると思いますが、考え続ける授業のためにどこまで見せていくのかということもポイントになると考えます。

### < 感想 >

せたな町立大成中学校 教諭 福澤 湧太先生より

結果を提示し、そうなる理由を考えさせる授業を行ったことがありますが、生徒が答えの辻褄合わせのための思考をしてしまうこともあり、それぞれの指導でのメリット、デメリットは抑えたうえで、適材適所で扱っていく必要があるということを改めて認識しました。

利尻富士町立鴛泊中学校 教諭 伊藤 祐史先生より

ビフォー、アフターを知ることができて良かったです。

厚岸町立厚岸中学校 教諭 小幡 友紀先生より

大変勉強になりました。ありがとうございました。